

「血管造影手技支援モニター」システムとは

信州大学医学部、株式会社ケーアンドケー、MIRAI BAR株式会社、および株式会社ネクステッジテクノロジーにより共同開発した、「血管造影手技」いわゆるカテーテル手技を支援するためのシステムで、信州大学医学部医療データサイエンス講座 山田哲教授の指導の下開発を進めてきた製品です。

昨年に発表した、「空中3D映像と空間3Dインターフェイス」は、10.1インチサイズで、読影のための3D映像を空中ディスプレイに表示し、3Dインターフェイスを使って、視界を遮らずに直感的な操作で読影することで、医療教育システムとして開発されました。今回、約40インチの空間映像を空間3Dインターフェイスで操作するシステムにすることで、臨床での利用を目的に開発しました。



対応コンテンツ：

STL, OBJ, PLY, 3FD, FBX, GLTF, VTK, DAE

*STLデータは、複数のSTLを1つのグループとして管理可能

360度画像(jpg)、360° VRビデオ(mp4)

ネットワーク接続：

ネットワークを介して複数システムの同期接続が可能

本体	サイズ	W1075×D780×H1920
	重量	約80kg
モニター仕様	画面サイズ	43inch 941.2×529.4
	解像度	3840×2160(4K)
	コントラスト比	1100:1
	消費電力	最大260W
	IF	HDMI
3Dプレート	サイズ	1050×1050
	有効結像領域	約75%(約780×780)

